

編集後記

今回は、人は“丸○”と“四角□”どちらが好きか、どちらが使い易いかについて。

まずは、食卓の形から。洋食でも和食でも、レストラン、食堂に入れば、通常、その食卓の形は四角、矩形。が、中華レストランに入ると、ほとんどが丸形、円卓だ。食に関する文化や習慣の違いか。四角の食卓は、相対する二人連れとか少人数での団らんに向くようだ。円卓では、大人数で囲み、大皿に盛られ料理を皆が仲良く取り分け、にぎやかな食事風景となる。また、円卓では、座る人数の多少増減に融通が利くし、各自が座る位置や順番も自由、上座も下座も無いらしい。が、矩形卓では、どうも上座、下座があるという。皆さんは、果たしてどちらがお好みか。いずれにしても、和食、洋食そして中華、食を共に語らう人数、その付き合い程度で、その場を楽しめれば良い。

一般の世相での評価はどうか。“もめ事を丸く治める”、“あの人は角が取れて人間が丸くなり、立派になられた”とか“あの人の芸は益々円熟味を帯びてきた”など、どうも“丸○”の方が分が良いようだ。

建物や居住空間ではどうか。大都

市の駅前などに、円形の高層タワービルが見られる。大都市の威風だ。だが、最上階の回転レストランならいざ知らず、各階の居室は“扇形”の形状となり、どうも使い勝手として(?)が湧く。木造文化の日本では、矩形空間が馴染む。狭い四畳半の茶室だからこそ、侘び、寂びの世界に浸れるのかもしれない。一方、欧州は石の文化。古代より、円形劇場や競技場が多く建造され、文化遺産となった。これも文化の違いか。

そろそろ“非開削”に触れないと、本誌の趣旨に合わない。最近、顕著な実績を挙げた「ボックス推進工法」についての評価だ。私の結論から言えば、我が国の非開削推進技術に関し、飛躍的進展への分岐点になるはずだ。

我が国での推進技術は、これまで下水道整備の進展と共に技術向上してきた。下水道の世界だから、管の中を通るのは下水の流体であり、内空断面は円形で良かった。また、円形の管体は作用する外力に対し、構造的に安定し、合理的だ。さらに、密閉型機械掘進機での地山切削には、カッタビットの円運動が効率的であり確実だ。下水道管渠の敷設には、円管推進が何事にも合理性が

あった。が、中を人が通り、車両が走る場合、円形断面はそのままには使えず、かなりのデッドスペースを生む。しかし、掘進技術の合理性が勝り、地下鉄建設でも円形シールドが採用された。下水道の世界でも、雨水の貯留管を円形管推進で構築するケースが多く見られるが、貯留排水後、清掃、点検のために、いざ人が中に入る際、円形断面は支障となるという。人の使い勝手が多少悪く、不合理であるとしても、掘進の効率性や構造物としての合理性が勝った結果だ。技術の合理性に人間がすり寄った形だ。だが、矩形断面での掘進ができれば、人に優しい地下空間の創出が非開削推進で可能となる。推進技術が人の利便性に歩み寄り。主従関係の逆転だ。矩形断面とは言え、切削ビットの軌跡は自転、公転を組み合わせた円運動であることが妙だ。

ある中学進学塾のキャッチコピーは、“四角い頭を丸くする”だ。発想を柔軟に転換することを求めたらしい。ボックス推進工法は、“四角い頭を丸くしたら、丸くしか掘れなかった推進を四角にできました”ということか。

〈編集委員長 石川和秀〉

No-Dig Today

No. 73 2010 Oct. 平成22年10月1日発行

編集：「No-Dig Today」編集委員会
編集企画小委員会

発行所：JSTT 一般社団法人日本非開削技術協会
〒135-0047 東京都江東区富岡2-11-18
西村ビル3F

TEL.03(5639)9970 FAX.03(5639)9975

発行人：松井大悟

印刷所：株式会社 LSプランニング

● ご案内 ●

◇本誌のご購読について

ご購読をご希望の方は、巻末の振込み用紙で当協会まで直接お申し込み下さい。

○購読料(税込)

1冊 1,575円(本体1,500円)〒400円

1ヵ年(4冊)6,300円(本体6,000円)〒1,600円

◇発行

年4冊：1・4・7・10月1日発行

◇広告のお申し込みについて

本誌に広告の掲載をご希望の方は、編集室までご連絡下さい。媒体資料等お送り致します。

◇投稿

・技術論文

非開削に関連する技術、製品についての論文を募集しています。

投稿論文は、委員会にて選考の上掲載論文には薄謝をお送り致します。

◇情報のご提供について

・No-Dig NEWS ダイジェスト

非開削技術に関連する新技術、新製品、図書の紹介、関連団体の動向や講演会、セミナー・展示会の案内など、情報をお寄せ下さい。